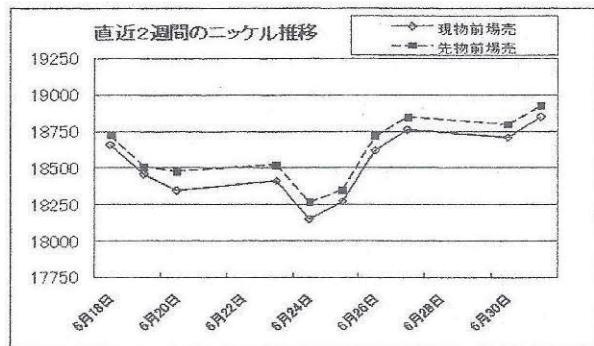


## KLTM錫は50.4セント続伸 採算値は2万円高

KLTM錫は50.4セント高の73.039Mドルと続伸。USドルは170ドル高の2万2,770ドル、出来高は75トン。Mドル/USドルレート=3.2077とTTSレート102.57円で換算した採算値は2万円高の234万円、諸掛込みの採算値も2万円高の250万円。



## 橋本健一郎氏の銅6月レポート及び7月見通し

■概況: 前半は米サプライマネジメント協会(ISM)が発表した5月の製造業景況感指数は55.4となり前月から改善したこと、5月の米雇用統計の非農業部門の雇用者数が前月比21万7000人増加と雇用回復の目安となる20万人台を4ヶ月連続で上回ると良好だったことなどのプラス材料もあったが5月の中国HSBC製造業PMI改訂値は49.4に下方修正したこと、中国当局が青島港の銅、アルミ、鉄鉱石について在庫を担保とした資金融資について調査に乗り出したこと嫌気し下落、前月最終価格より324ドル下げて前半締めとなった。

後半は5月の米住宅着工件数は前月比6.5%減の100.1万件と予想の103万件を下回り、着工許可件数は6.4%減の99.1万件で予想の105万件を下回ったこと、米住宅ローン申請指標は1322.6に低下し新規、借り換えともに低下、1Qの米GDP確報値は前期比2.9%減少に下方修正で予想の1.8%減を下回るなどのマイナス材料もあったが米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果発表を受けて米景気が回復する一方、緩和的な金融政策は長く続くとの見方が強まること、中国の李首相が大幅な金融緩和をしなくとも7.5%成長は可能と発言したことから上昇。7月1日現在、前半締めから284ドル上昇の6955ドル、建値76万円のスタートとなった。

■前月の経済指標: 月間のドル/円レート(TTS)は102.33円→102.28円。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比+6.1%の77万4039台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は前年比-0.7%の26万5171台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比-15%の6万7791戸であった。

貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は前年比で電気銅が-19.2%の3万9250トン、スクラップが-2.1%の2万7359トン。輸入は電気銅が前年比+649%の9506トン、スクラップが+49.4%の7247トン。国内指標を見ると、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)では前年比+6.5%の6万8237トン。日本電線工業会発表の銅電線出荷速報(推定)では前年比+1.2%の5万4600トンであった。

■見通し: 今月は中国青島港の多重債務問題の行方、及び米中経済指標に一喜一憂した月となつた。自動車生産は77万4039台で前年同月の72万9692台に比べ4万4347台、6.1%増となり9ヵ月連続で前年同月を上回つた。このうち乗用車は65万5,032台で3万7873台、6.1%増となり9ヵ月連続のプラス、トラックは10万8743台で7119台、7.0%の増となり11ヵ月連続のプラス、バスは1万264台で645台、5.9%減となり2ヵ月連続のマイナスとなつた。5月の国内需要は36万3370台で前年同月比1.2%減。(うち乗用車30万4371台で同1.3%減、トラック5万8486台で同0.2%減、バス513台で同19.0%減)輸出は前年同月比9.6%減(実績)、6月の国内自動車販売台数(軽除く)は26万5171台で前年比-0.7%、うち乗用車-1.8%、貨物+7.2%、バス+3%。5月の住宅着工戸数は6万7791戸(前年同月比15.0%減)、季節調整済年率換算値で87.2万戸(前月比3.7%減)で3ヵ月連続マイナスと消費マインドの改善等もあって堅調に推移してきたが足下では消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって減少。今後の先行きについては雇用・所得環境の推移、東日本大震災からの復興状況、建設労働者の需給状況、資材・労務費を含めた建築費の上昇、住宅ローン金利の動向等を引き続き慎重に見極める必要がある。前年同月比では、持家は4ヵ月連続減(22.9%減、季節調整値の前月比12.3%減)、貸家は15ヵ月連続増(3.1%増、季節調整値の前月比5.9%減)、分譲住宅は4ヵ月連続減(27.1%減、季節調整値の前月比0.2%増)、分譲マンションは4ヵ月連続減(43.3%減)となつた。

伸銅品生産は前年比+6.5%の6万8237トンと11ヵ月連続プラスで内需は5万6521トンで+6.8%と9ヵ月連続増、輸出は1万1716トンで+5.2%と4ヵ月連続増。銅条は1万9780トンで+8.1%と11ヵ月連続増、黄銅棒は1万6237トンで+11%と11ヵ月連続増。銅電線出荷量は前年比+1.2%の5万4600トン、うち国内-0.8%、輸出+82.4%、通信-14.1%、電力-1.9%、電気機械+1.0%、自動車+1.4%、建設電版+0.2%、その他内需-9.5%となつた。

輸出に関しては電気銅が前年比-19.2%の3万

9250トン、銅スクラップは-2.1%の2万7359トンでドル円が101円台(TTM)と先月から約1円高が進んだことや好調な需要を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅、スクラップの輸出は減少したと見る。輸入は電気銅が+649%の9506トン、スクラップは+49.4%の7247トンで、電気銅は内需・輸出ともに製造業が比較的好調な事、スクラップは国内発生層減少及び価格停滞による原料の出し渋りから代替品として輸入品が大幅増加したと見る。

銅需給に関して、住宅関連は新設住宅着工数が前年比-15%の3カ月連続減、持家-22.9%、貸家+3.1%、分譲住宅-27.1%、分譲マンション-43.4%と大幅減、消費税前の駆け込み需要も終了し3カ月連続減で来月の動向に注視したい。自動車は生産が9カ月連続上昇の+6.1%、一方で6月の国内販売台数は前年比-0.7%と減少、ただ減少幅は先月より大幅減っており先月に続き販売減にも関わらず生産は堅調で来月以降に注目。前月に続き消費税前の駆け込み需要の反動から住宅、自動車販売の2本柱が減少傾向にあった。ただ自動車販売に関しては減少幅も大幅に戻しており共にどの水準で落ち着くか注視したい。為替は前月から約1円高の101円～102円近辺と円高が進んだがLMEの上昇を受けて建値が76万円付近まで上昇したことから市中に多少出回るもののが発生を上回るスクラップ需要から需給は今後も

引き締まるだろう。

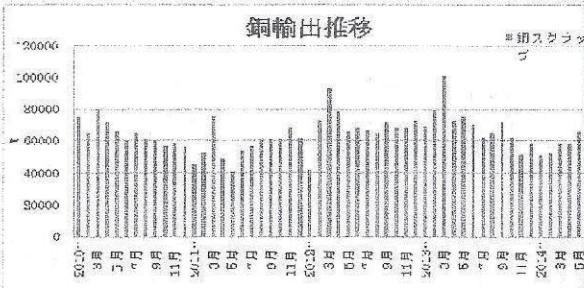
銅価格に関して、今月は中国景気後退懸念への対応、及び中国・青島港の多重債務問題に左右される。中国の景気後退懸念への対応だが先月までの中国PMI指数の悪化から一転、6月は官民ともに景気判断となる50を上回ったことや中国の李首相が大幅な金融緩和をしなくとも7.5%成長は可能との発言から後退懸念はなくなるのでは。中国・青島港の多重債務問題に関しては調査中のため倉庫から銅地金を搬出できなくなっている実需家が青島港の搬出を諦め銅地金が不足。上海でのスポット購入に踏み切ったそれらを踏まえた銅価格は6月・7月のPMI指数が官民とも景気判断となる50を超える、青島港の多重債務問題調査による地金不足が続いた場合に6月高値のもう一段高の7100ドルを予測、いずれかの場合は7000ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合にもう一段安値の6600ドル。為替TT SはECBが初のマイナス金利の導入に踏み切った一方で、米FRBは金融緩和縮小を蕭条と進めていることから対ユーロでのドル高が予測されるがイラク情勢などの地政学リスクに左右されるのでは。イラク情勢が悪化した場合は米経済へ影を落とすとの判断のドル安から下値は6月安値の104円台、上値はイラク情勢に変化なければ102円まで円高が進むと予測。銅建値に関しては720円～780円程度と予測。

	3月	4月	5月
生産台数	82万4114台	77万484台	77万4039台
前年比	+14%	+3.4%	+6.1%
4月		5月	6月
販売台数	18万8864台	20万6906台	26万5171台
前年比	-11.4%	-5.6%	-0.7%
3月		4月	6月
新設住宅着工数	6万9411戸	7万5286戸	6万7791戸
前年比	-2.9%	-3.3%	-15%



亞鉛くず 現金高価買受け  
亞鉛ドロス・滓 ご照会乞う  
  
再生亞鉛精錬  
  
日進産業株式会社  
代表取締役 星山美知子  
〒 580-0006 松原市大堀1丁目7-30  
TEL 0723-31-3945代表  
FAX 0723-31-3974

輸出	3月	4月	5月
電気銅	3万7912t	3万6486t	3万9250t
前年比	-46.0%	-18.7%	-19.2%
スクラップ	2万556t	2万1617t	2万7359t
前年比	-33.4%	-23.5%	-21%



輸入	3月	4月	5月
電気銅	7498t	3374t	9506t
前年比	+363.4%	-33.2%	+649%

